

# 私立大学環境保全協議会 第38回総会・研修研究会 プログラム

<第1日>総会（ライブ配信）	2022年3月17日（木）13:00～13:30
講演会（ライブ配信・オンデマンド配信）	2022年3月17日（木）13:40～16:40
※講演会のオンデマンド視聴期間：3月24日（木）～4月17日（日）	
<第2日>グループ討議（Zoom ミーティング）	2022年3月18日（金）9:00～11:30
※ 研修研究会参加者交流会（オンライン）についても、ツールを含めて検討中です。	

## 第1日 【3月17日（木）】 <Zoom ウェビナーにてライブ配信>

≪総会≫ 13:00～13:30（30分間）

- ◆議事 2021年度活動・決算報告・新会員紹介等  
2022年度活動計画・予算・次期役員審議等

≪研修研究会≫

1. 開会挨拶 13:40～13:50 私立大学環境保全協議会 会長 松本 道明
2. 特別講演 13:50～14:40（50分間）

### 「早稲田大学における『研究×人材×社会』の三位一体によるカーボンニュートラル実現への展開」

早稲田大学 先進理工学部電気・情報生命工学科 教授 林 泰弘

早稲田大学は、創立150周年を迎える2032年のカーボンニュートラル達成を目指し、2021年11月に、「WASEDA Carbon Net Zero 2030s」を宣言した。研究・教育・キャンパスそれぞれにおける早稲田大学の取り組みや展望を紹介するとともに、カーボンニュートラル達成に向けた私立大学特有の問題点や課題解決にむけて一考する。また、今後、宣言発出を予定する大学の皆様にご参考となるような宣言発出までのプロセスなどについても触れる。

◇休憩（5分）◇

3. 研修講演 14:45～15:35（50分間）

### 「デジタル駆動・超資源循環参加型社会の構想」

慶應義塾大学 環境情報学部 教授 田中 浩也

慶應義塾大学・鎌倉市・企業21社が応募提案し、文部科学省・共創の場（COI-NEXT）プロジェクトとして採択された「デジタル駆動・超資源循環産型社会」構想では、IoT、センサ、3Dプリンタ、個体識別データベース、デジタル地域通貨などの、あらゆる「デジタル技術」を組み合わせることで、まちの中で資源循環の新しい流れを生み出そうとしている。

2022年から施行されるプラスチック資源循環促進法にも呼応する、この新たな構想について語り、今後の展望を述べる。

◇休憩（5分）◇

4. 話題提供 15:40～16:30（50分間）

### 「カーボンニュートラルを巡る国内外の動向・取り組みについて」

みずほリサーチ&テクノロジーズ 株式会社 環境エネルギー第2部  
環境エネルギー政策チーム 田原 靖彦

カーボンニュートラル達成に向けた国内外の動向、国内企業の先進的な計画や取り組み事例、カーボンニュートラル達成に必要な技術開発等を解説し、カーボンニュートラル達成に向けて大学に求められる貢献（技術開発・政策立案面、人材育成面等）について示唆する。

5. 講演総括 16:30～16:40（10分間） 私立大学環境保全協議会 副会長

**第2日【3月18日（金）】** <グループごとに Zoom ミーティングを設定>

1. グループ討議 9:00～11:30（150 分間）

I：教育と連携 <定員 30 名：学生参加 可>

「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションについて」

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、大学はどのような連携・貢献ができるでしょうか。ゼロカーボン・キャンパス、地域ゼロカーボンや人材育成など、コアリションに参画する大学による取組事例の紹介講演を参考に、情報交換と意見交換を行います。

（グループ内講演）「東海大学における脱炭素に関わる研究ならびにその取り組み」

東海大学教養学部人間環境学科教授 小栗和也

「新宿区のゼロカーボンシティ構想について」（事前収録）

新宿区環境清掃部環境対策課長 向 隆志

II：化学物質 <定員 3 グループ計 50 名>

「新実験棟建設やゼロエミッション化に向けた対応などについて」

前回のグループ討議で取り上げた、新実験棟建設に向けた対応や、化学物質管理におけるゼロエミッション化、最近見受けられる毒劇物紛失事例なども踏まえ、複数のグループに分かれて、テーマに応じた意見交換や専門的な知見からの講演を行うことを予定しています。

（サブグループ） II-A 実験棟建設・局所排気装置について

II-B 高圧ガスについて

II-C 化学物質管理について

（II-B グループ内講演）「実験施設にかかる高圧ガス保安法への対応について（仮）」

株式会社巴商会 技術本部 営業技術部 吉田 憲司

III：施設・設備 <定員 30 名>

「2つのキーワードから大学の施設・設備を考える」

ウイズコロナ時代を迎えて、大学の施設・設備環境はますます多様で厳しいものが求められます。このグループでは最近のトレンドである「DX(デジタルトランスフォーメーション)」「ESG(Environment 環境・Social 社会・Governance 企業統治)」の2つをキーワードとして討議を行います。

（コーディネータによる情報提供）

・建物 OS 「DX-Core」について：清水建設株式会社 LCV 事業本部 BSP 事業部 BSP 部主査 棚町正彦

・大学のカーボンニュートラル化に向けた取組みの現状

総量削減の目標設定・RE100 宣言（電力契約見直し、再エネ設備の設置、証書）・建築環境認証取得：  
日建設計総合研究所環境部門理事 河野匡志

・脱炭素社会の実現に向けて：東京ガス株式会社都市エネルギー事業部公益営業部部長 佐藤昭彦

・早稲田大学のカーボンニュートラルに向けた取組み～まずはエネルギー見える化～：

東京電力エナジーパートナー株式会社販売本部法人営業部都市事業ユニット課長 藤井謙・渡邊圭介

今回の研修研究会を全面オンライン開催とするにあたり、会員間の交流の機会が長きにわたりご提供できていないことから、Zoom 以外のツールを用いた研修研究会参加者による交流会についても検討を進めております。

詳細は決まり次第ご案内申し上げます。